特別支援学校専修・特別支援教育コーディネーター専修，アセスメントの総合的解釈

アセスメントに基づく教育実践力を高めるための大学院の授業

特別支援教育講座・吉松靖文

１．授業の概要

特別支援教育コーディネーター専修の学生が実習で対象としている児童・生徒の学習や行動の実態及び発達検査等のアセスメントの結果を総合的に解釈し支援の在り方を具体的かつ実践的に検討することで，アセスメントや特別支援教育に関する実践力を高めることを目的とした授業である。

本授業では，臨床心理専攻の学生も受講していた。

２．アンケート結果

授業内容等に関する以下の７つの項目(図1)ついて無記名によるアンケートを行った。7点尺度による定量評価及び項目毎に自由記述も求めた。受講者15人中,13人が回答した(回収率87.7%)。

1. 教材の提示，資料の配布は適切に行われたと思いますか?

回答者全員が，肯定的な評価をしていた。自由記述は以下の通りであった。

- 各事例検討後の資料が助かりました。
- 資料は大変分かりやすく検査用具を実際に手に取りながら(K-ABCII)学ぶことができ，理解が深まった。
- 検査について基づく理論などが分かりましたが，私の力不足で整理できませんでした。

資料の提供や授業後のフィードバックの在り方について肯定的評価を受けることができた。一方，特別支援教育を専攻していない受講生に対する資料提供の在り方に課題があることが分かった。

2. 教員の講義の進め方は適切だったと思いますか?

こちらも回答者全員が，肯定的な評価をしていた。自由記述は以下の通りであった。

- 検査の解釈をじっくりできた
- KABC-2の情報が知れてよかったです。

対象児についての各種の資料を提示し，それらを小グループで検討してもらうことでアセスメントや支援法の立案に有効な授業ができたと思われる。また，新しい発達検査の紹介についても肯定的評価を受けることができた。

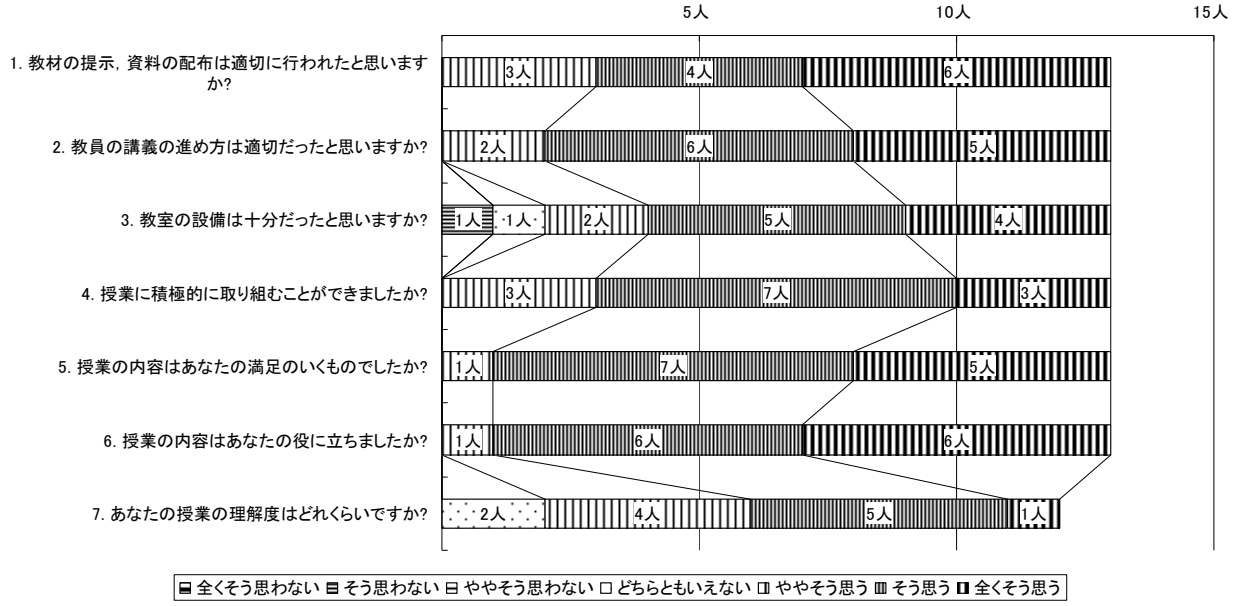

図１．授業内容に関するアンケート結果

3. 教室の設備は十分だったと思いますか?

否定的評価,中立的評価が 1 名ずつあった。自由記述は以下の通りであった。

- やや狭いかと思いますが,仕方ないことなので
- 研究室のプリンターが調子が悪くなることが多く不便でした。
- 講義は問題ないが院生控え室は問題あり。プリンタなど

否定的評価や中立的評価をした者はいずれも，本授業の在り方についてではなく，学生控え室の設備について記述しており，本来の評価対象である本授業の教室についての評価ではないと思われた。肯定的な評価をした者の記述には教室の狭さをあげていたが，今年度は教室設備が逼迫していたために対応が困難であった。

4. 授業に積極的に取り組むことができましたか?

回答者全員が肯定的な評価をしていた。自由記述は以下の通りであった。

- 前期の WISC-IV の授業の土台があったので分かりやすかったです。
- 毎回発言するようにした。
- 特別支援教育専攻ではないため事例を出すこともできずグループ討議でも遠慮がちになっていたと思うが,メンバーの方々がそれをわかった上で受け入れてくださってありがたかった。

項目 1 と同様，特別支援教育を専攻していない受講生に対する配慮が必要であることが示唆された。一方，特別支援教育を専攻している受講生からは前期の授業との連続性についての肯定的評価を受けることができた。

5. 授業の内容はあなたの満足のいくものでしたか?

回答者全員が肯定的な評価をしていた。自由記述は以下の通りであった。

- 事例を早めに紹介できたのでその後の修論作成にも役立ちました。
- 他の人の考えをたくさん聞くことができた

授業の早い段階で事例を出すことができた受講生は，修士論文作成に役立ったと評価した。一方，辞令を出すのが遅くなった段階の受講生に対する本授業の在り方について検討する必要があるかもしれない。

6. 授業の内容はあなたの役に立ちましたか?

回答者全員が肯定的な評価をしていた。自由記述は以下の通りであった。

- とても勉強になりました。時間があればもっともっと教えていただきたかったです。
- 前期の WISC-IV の授業の土台があったので分かりやすかったです。
- 今後検査をすることがあると思うので

学習意欲向上や大学院修了後の有用性に関する評価を受けることができた。

7. あなたの授業の理解度はどれくらいですか?

回答者のうち 2 名が中立的評価，1 名が無記入であった。自由記述は以下の通りであった。

- 特別支援教育の基礎知識をもっと習得して望んでいたらより理解が深まったと反省している
- 少しペースについていけなかったから。できる人が同じグループにいると自分の思考が止まるから。
- 検査結果から特性を見いだし支援方法を考えることができないから
- 検査結果の解釈や解釈に基づく支援方法を前期よりも確実に根拠をもって述べることができるようになったから
- よくわかりました。
- 事例を早めに紹介できたのでその後の修論作成にも役立ちました。

理解度についての定量的評価は全体的に高いものの,中立的な評価をしている者からは,アセスメントから支援法を立案する実践力についてまだ課題があることが示唆された。また，特別支援教育を専攻している受講生とそうでない受講生との格差についての配慮の必要性が示唆された。

３．総括

以上のように概ね高い評価を得ることができた。一方で，修了後の教育実践力養成についてはまだ課題も残されていることも示唆された。また，他専攻の受講生への配慮などの課題も明らかとなった。次年度はさらなる改善・向上を図っていきたい。